

国内新車販売統計（2016年1月）

2016年の出足はスロースタート：1月国内新車販売は年率501万台

2016年1月は全車両セグメントの販売（SAAR）が前月比で減少

- ・ 2月1日発表の1月の国内新車販売台数（登録車＋軽自動車、貨物車含む）は前年同月比4.6%減と13か月連続の前年割れとなり、季調済年率換算値(X-12-ARIMAにて当社試算、以下SAAR)でみた1月の販売台数も前月比5.7%減の501万台となった。直近のSAARは15暦年実績台数(505万台)を下回る水準にあり、内需は依然として低調である(図表1)。
- ・ 内訳をみると、1月の乗用車（登録車＋軽）販売台数のSAARは前月比4.6%減の422万台となった(図表2)。このうち、登録乗用車は同4.7%減の276万台と減少し、同セグメントの販売台数は、一進一退で低迷が続いている(図表3)。
- ・ 軽乗用車の1月の販売台数（SAAR）も前月比4.5%減の146万台となった(図表4)。上期末(15年9月)を挟んで専門メーカーが行った積極販売は一服し、軽市場は伸び悩んでいる。
- ・ 加えて、貨物車（普通＋小型トラック）販売台数の1月のSAARも前月比7.3%減の42万台と大きく減少し、3か月後方移動平均でみたトレンドには一服感がでている(図表5)。
- ・ 後述するが、鉱工業指数をみると、自動車メーカーは11月に続き12月も減産を行った。もっとも、輸出に下振れ懸念があることと(後述) 足元の内需が依然として低調なことから、今後は増産基調は維持されるものの、盛り上がり欠ける展開が続くと予想される。
- ・ 8月からの新興国通貨安という突然の逆風にさらされている、中古乗用車輸出台数は12月の台数が前月比2.2%減の97万台と2か月連続の減少となった。2015年通年の台数は前年比3.2%減の102.2万台と、6年ぶりの減少となった。

図表1 1月の国内新車販売 SAAR は前月比5.7%減の501万台

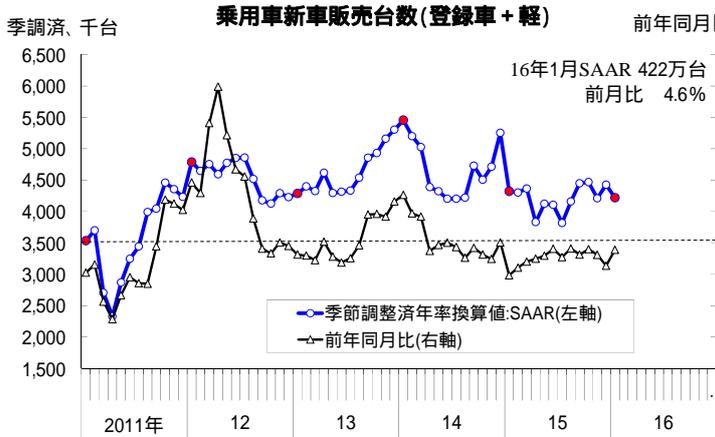


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

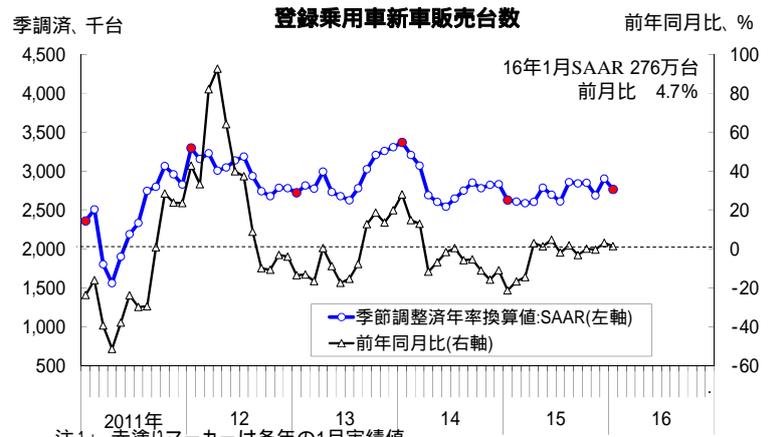
出所: 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会より作成

図表2 乗用車販売(SAAR)が前月比減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会及び全国軽自動車協会連合会より作成

図表3 登録乗用車販売は一進一退で推移



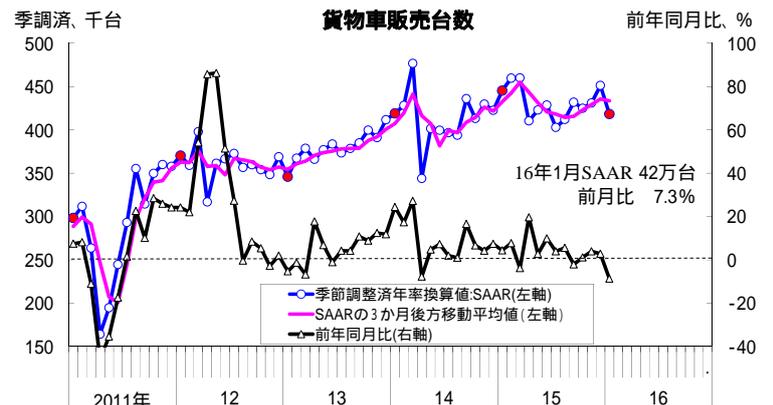
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

図表4 軽乗用車販売も前月比減少



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 全国軽自動車協会連合会より作成

図表5 貨物車販売は大幅減



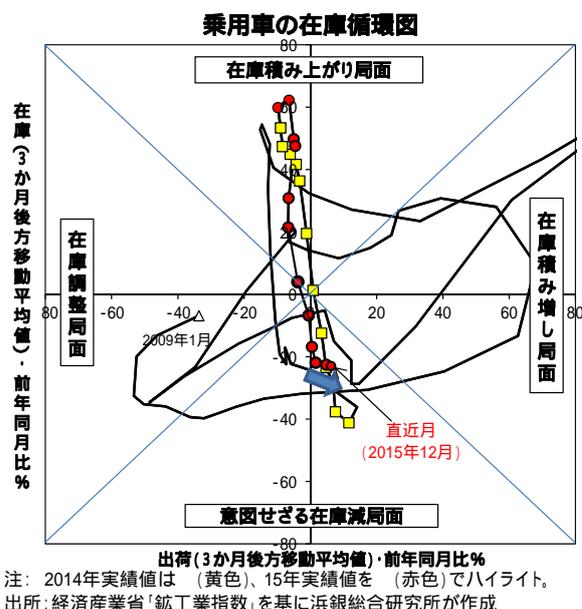
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 日本自動車販売協会連合会より作成

12 月軽乗用車市場には依然として在庫過剰感あり

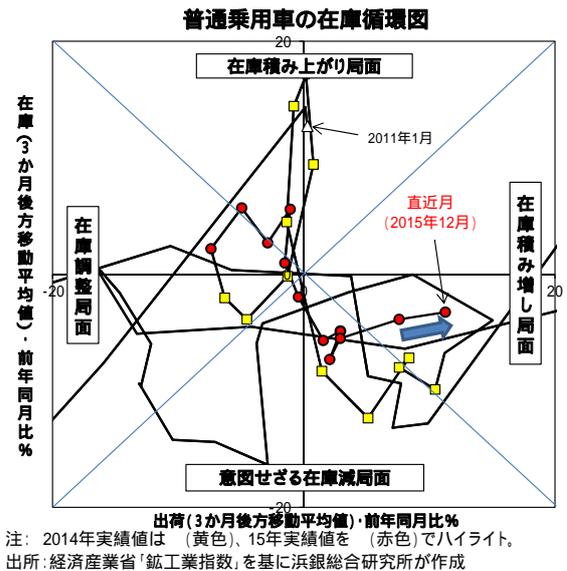
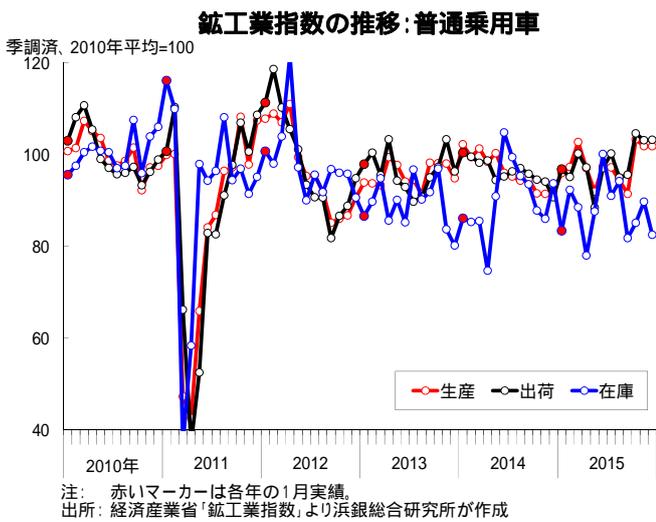
- ・ 鉱工業指数(速報値)を見ると、自動車メーカーは11月に続き12月も減産を行ったため、12月の在庫は前月比で減少した。在庫循環図上では^(注)、11月に続き12月も乗用車生産は「意図せざる在庫減局面」にあり、在庫水準は健全である(図表6)。もっとも、乗用車の生産が「在庫積み増し局面」に向かっているものの、その勢いは鈍く、同セグメントの生産動向は停滞していると判断できる。小型乗用車の需要低迷と軽乗用車市場の在庫過剰感が足かせとなっている。
- ・ 今後の乗用車生産は、トヨタ自動車の新型「プリウス」の増産もあって、「在庫積み増し局面」に向かって増加し続けるとみられるが、上記に加えて、輸出に下振れ懸念があることから(後述)全体としての生産持ち直しの勢いは鈍いものと予想される。
- ・ 図表7～9では鉱工業指数から、普通、小型、軽乗用車別の各指数(生産、出荷、在庫)の推移と在庫循環図を示している。12月の普通乗用車の在庫(季調値)は3か月ぶりに減少した。生産活動は引き続き「在庫積み増し局面」にあり、在庫水準は適正である。
- ・ 小型乗用車の12月の在庫は3か月連続で減少し、在庫循環図上は12月も11月に続いて「意図せざる在庫減局面」にある。この先、需要の拡大が見通されれば生産が持ち直しに向かうことが期待できるが、今のところは「在庫積み増し局面」に向かう勢いは鈍く、同セグメントの生産動向は停滞していると判断できる。
- ・ 軽乗用車の在庫循環図も現在の位置は「意図せざる在庫減局面」にある。しかし、足元の動きは「在庫積み増し局面」に向かうどころか、逆に「在庫調整局面」に向かっており、同セグメントの生産動向がむしろ後退している点には要注意である。同セグメントの在庫過剰感は依然として強く、軽自動車メーカーは、在庫を増やさないように生産のアクセルをより慎重にコントロールする難しい舵取りをしなければならぬ状況が続いている。軽乗用車の需給環境に関しては、未だ予断を許さない状況である。

(注) 新モデルが発売されるタイミングで乗用車の出荷と在庫は大きく振れるため、各月の出荷・在庫(原数値)を3か月後方移動平均で均してから前年同月比と比較し、それぞれ変化率をX軸(出荷)とY軸(在庫)でプロットしている。

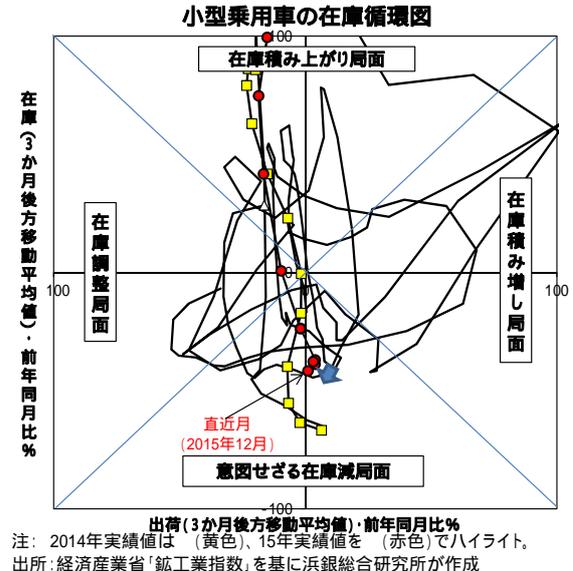
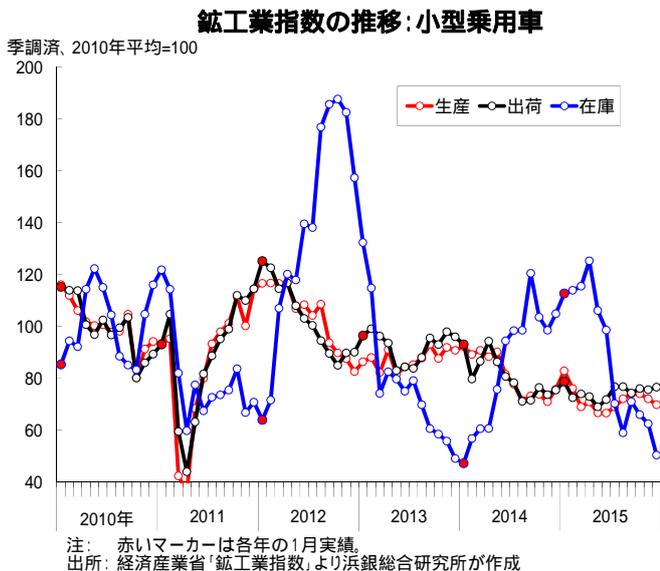
図表6 乗用車の在庫指数は5か月ぶりに増加



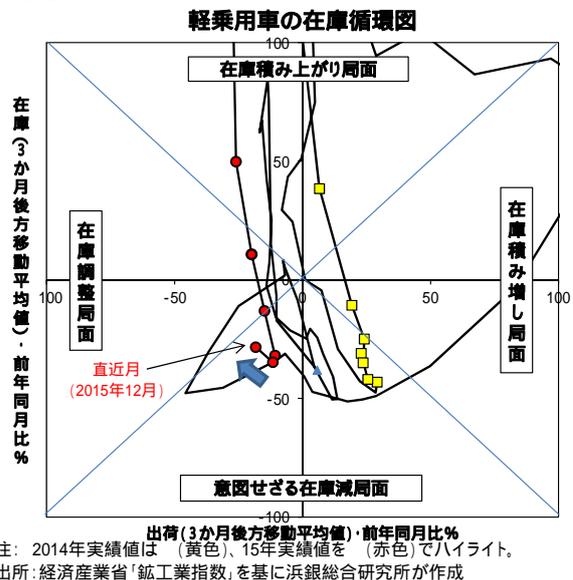
図表7 普通乗用車の在庫は適正水準にある



図表8 小型乗用車も引き続き「意図せざる在庫減局面」にあるが、生産動向は停滞



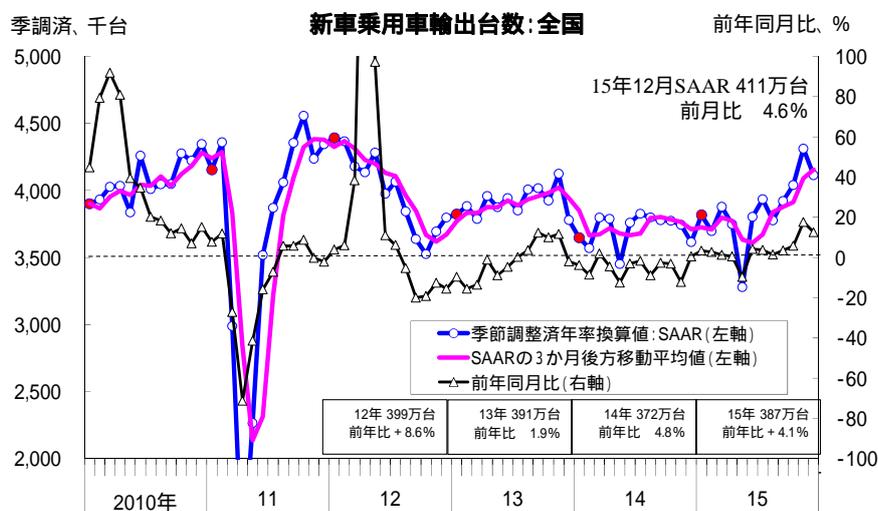
図表9 軽乗用車の在庫過剰感は依然として強い



12月新車乗用車輸出は4か月ぶりに減少。この先も、引き続き楽観は禁物。

- ・ 1月29日に公表された12月の乗用車輸出台数（軽乗用車と中古車を除く）はSAARで前月比4.6%減の411万台と4か月ぶりの減少となった（図表10）。
- ・ 主要仕向地別で見ると（図表11）当月は欧州への輸出（SAAR）のみ前月比で増加した。
- ・ 日本にとって最大の輸出先である米国の新車販売台数（SAAR）は、12月に1,791万台と1,800万台近辺の高い水準で推移しているが、前月比では1.8%の減少となり、3か月後方移動平均値でみたトレンドには頭打ち感がある（図表12）。なお、今後は米国政策金利の引き上げが自動車販売の下押し要因となる可能性があるため、米国向けの輸出がこの先、一段と切り上がると期待するのは禁物である。
- ・ 米国に次ぐ主要仕向け地である欧州向けの12月の輸出（SAAR）は、前月比22.7%増の68万台と大幅に増加した。新型車の販売開始が足元の堅調な輸出を支えているが、12月はオランダにおいて駆け込み需要が発生したことが大きく台数増に寄与した（図表13）。同国では低排出ガス車に対する優遇税制が15年12月31日に打ち切られている。16年1月以降は、この先食い需要の反動減が想定されることもあり、今後、欧州地域向けの輸出が増加し続けると想定するのは難しいと考える。
- ・ 最後に、12月の中国向けの乗用車輸出台数（SAAR）は前月比1.8%減の19万台と、大幅に減少した11月の台数から更に減少した。中国政府による景気刺激策（排気量1,600cc以下の小型車の取得税を10月に引き下げた）の影響で輸出台数は10月に大幅に増加したが、以降は再び水準を落としている。減税により10月以降、乗用車小売台数は前年比で2桁%の増加が続いているが、流通在庫は依然として過剰な水準にある（図表14）。乗用車の工場出荷台数（生産台数に近い）に目を向けると、12月のSAARは前月比2.8%増の2,570万台と高水準にある（図表15）。中国政府の需要喚起策により、同国新車販売の底割れ懸念は後退したものの、株価低迷もあって、販売増加がいつまで続くかが依然不透明なことや、流通在庫の過剰感も払しょくされていないことから、同国向け輸出台数が今後大きく浮上することは現時点では期待することができない。
- ・ 以上のように、主要自動車市場において、日本からの乗用車輸出に対する下押し要因が存在するため、輸出水準が今後さらに切り上がっていくと予想するのは難しい状況である。

図表10 12月の乗用車輸出（SAAR）は4か月ぶりの減少



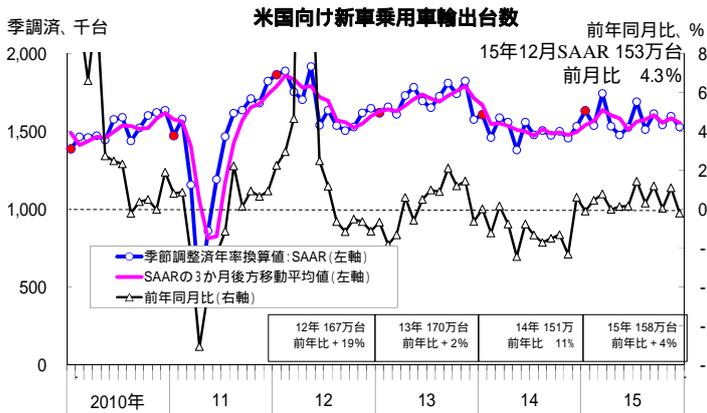
注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

注2：ノックダウンを除く。

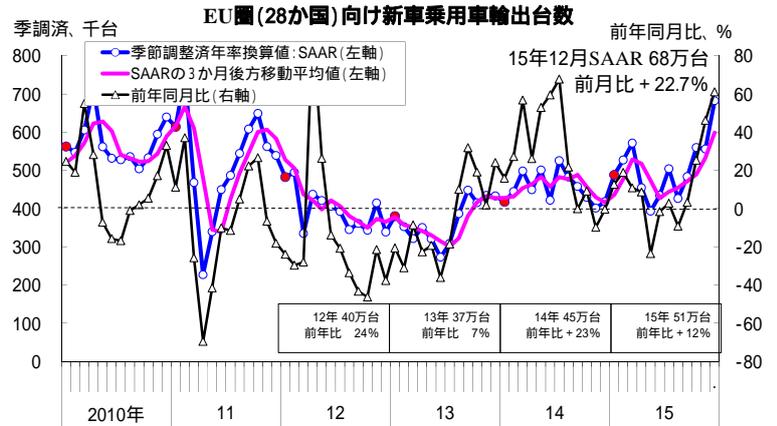
注3：SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。

出所：財務省「貿易統計」より作成

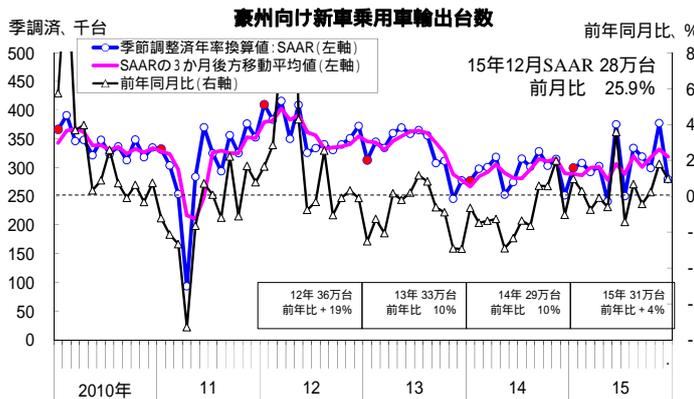
図表 11 欧州向けの輸出のみ増加



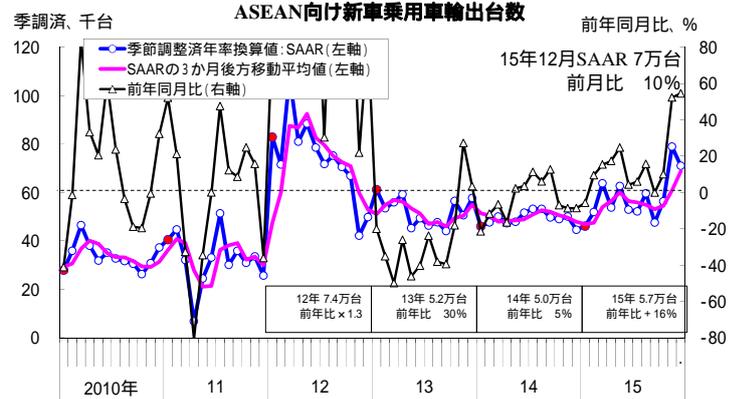
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成



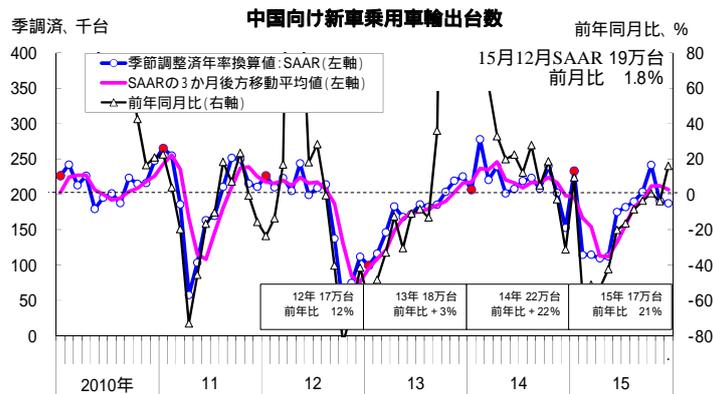
注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成

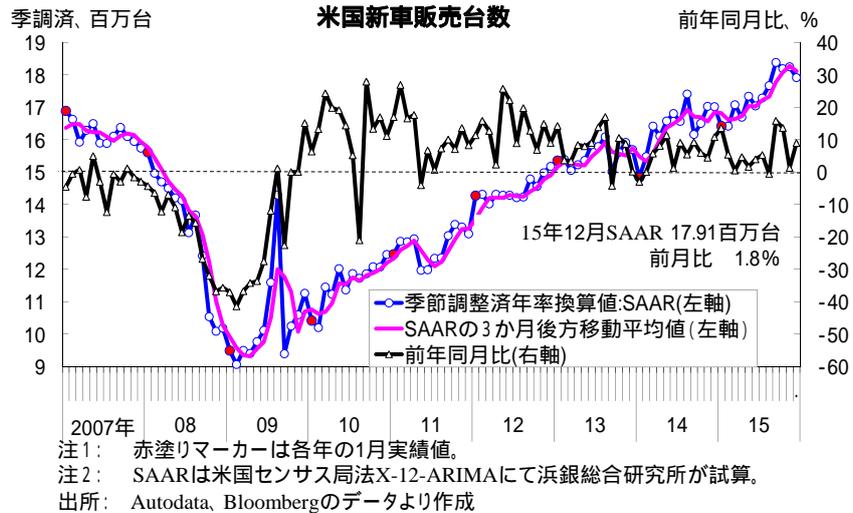


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成

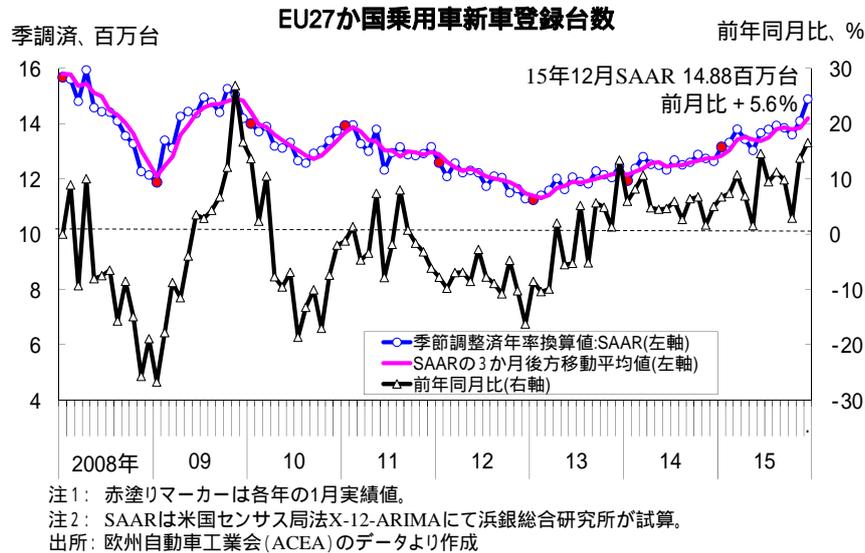


注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
注2: ノックダウンを除く。
注3: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: 財務省「貿易統計」より作成

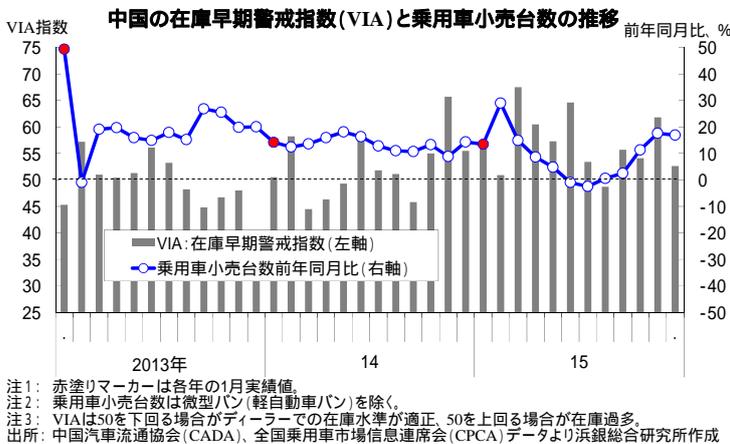
図表 12 米国新車販売は金利引き上げ後の需要減少リスクに要警戒



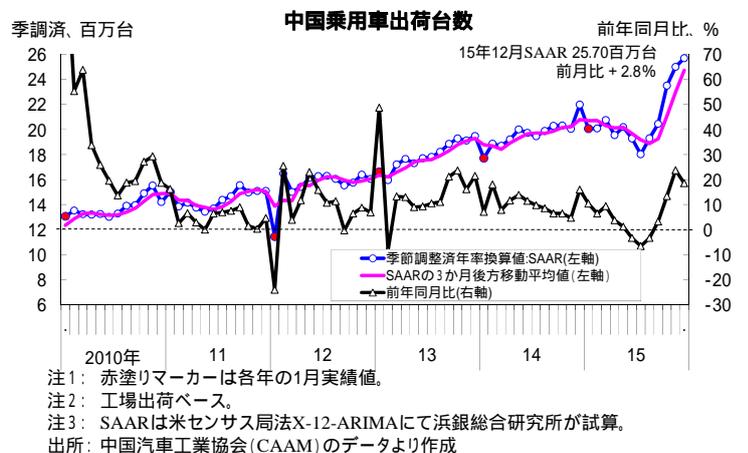
図表 13 欧州乗用車市場は12月にオランダで駆け込み需要が発生



図表 14 中国での乗用車流通在庫は依然過剰



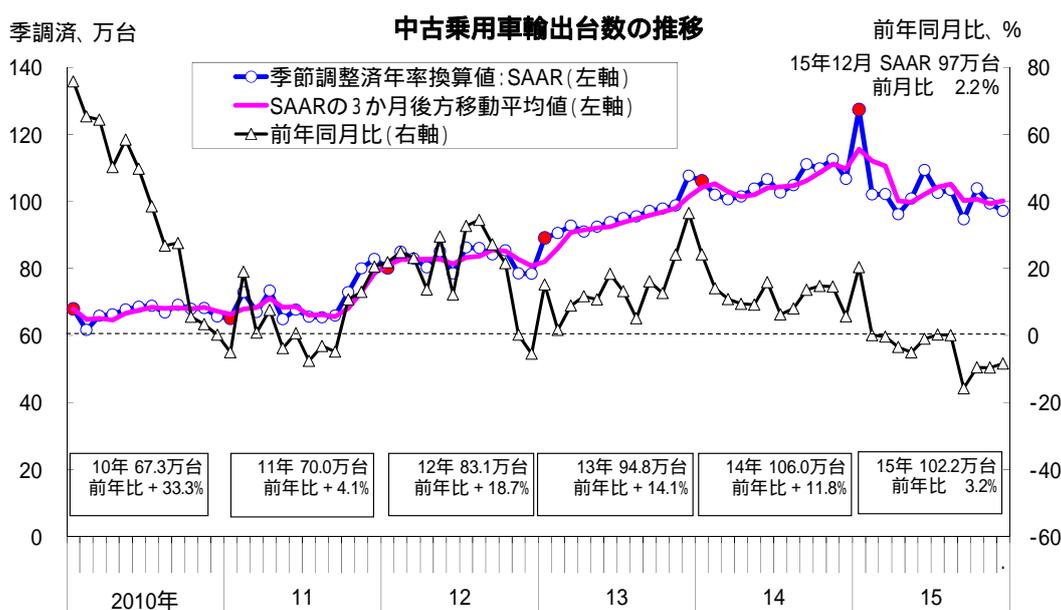
図表 15 減税により乗用車出荷は堅調に推移



12月中古乗用車輸出台数は2か月連続の減少：2015年は6年ぶりの前年割れ

- ・国内流通業者に注目されている中古乗用車の輸出市場に目を向けると、12月の中古車輸出台数（SAAR）は前月比2.2%減の97万台と、2か月連続の減少となった（図表16）。2015年通年の台数は前年比3.2%減の102.2万台と、6年ぶりの減少となった。
- ・12月の中古乗用車輸出を仕向地別で見ると、アフリカ、ニュージーランド、スリランカ向けの輸出が増加したが、その他仕向地向けの落ち込みをカバーできなかった（図表17）。中古車流通業者の間で高成長市場として注目されているスリランカ向けの輸出台数（SAAR）は、11月に前月比37.0%減と失速したが、12月は同3.6%増の3.7万台と若干持ち直した（図表18）。10月以降に相次いだ、関税率引き上げを含む政策変更によるマイナス方向の影響が、日本の輸出統計に現れている。関連業者へのヒアリングによると、底割れ感はないが、本格回復までにはまだ時間を要する印象である。
- ・中古乗用車の輸出車両単価（FOB平均価格）をみても、輸出仕向地での需要減退を背景に11月まで4か月連続で下落した後に、12月はやや持ち直したが、依然低調なままである（図表19）。
- ・12月の中古乗用車輸出の市場規模は前年同月比3.5%減の498億円と低調であった。15年通年では前年比10.0%増の6,614億円と市場は拡大した（図表20）。台数は減少したものの、高年式・高単価の中古車の輸出がスリランカ向けを中心に増加したことで、金額ベースでみた中古車輸出市場は拡大したのである。
- ・図表21では、2015年暦年の中古乗用車仕向地別のランキングを掲載している。15年はUAEやスリランカ、シンガポール向けなどが輸出台数を下支えしたが、ロシアでの減少や右ハンドル規制が導入されたキルギス向けの減少等を吸収することができなかった。
- ・自動車保有率の低い新興国市場を中心に、海外での中古車需要は中長期的に拡大すると考えるが、15年8月からの新興国通貨安という突然の逆風にさらされて以降、同市場は低迷しており、16年は厳しい環境下でのスタートとなっている。

図表16 12月中古乗用車輸出台数（SAAR）は2か月連続の減少：15暦年では6年ぶりの減少

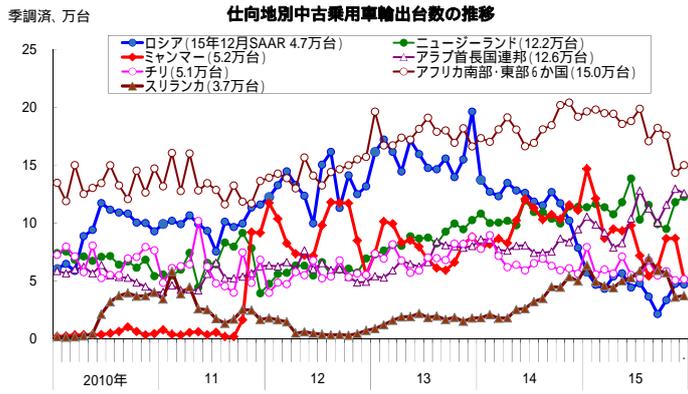


注1：赤塗りマーカーは各年の1月実績値。

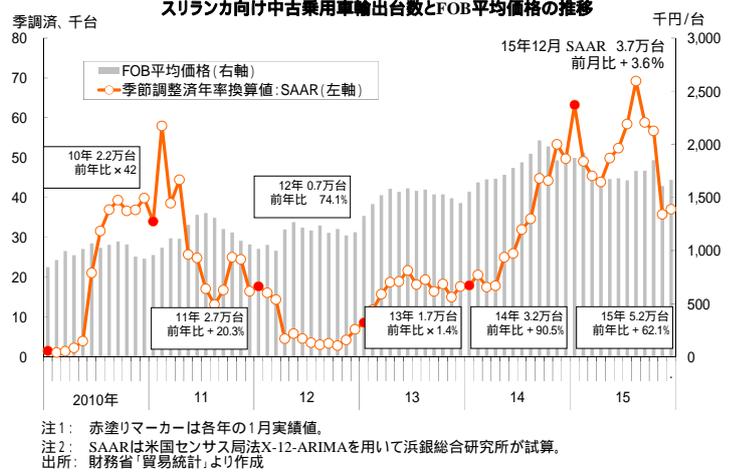
注2：SAARは米国センサス局法X-12-ARIMAを用いて浜銀総合研究所が試算。

出所：財務省「貿易統計」より作成

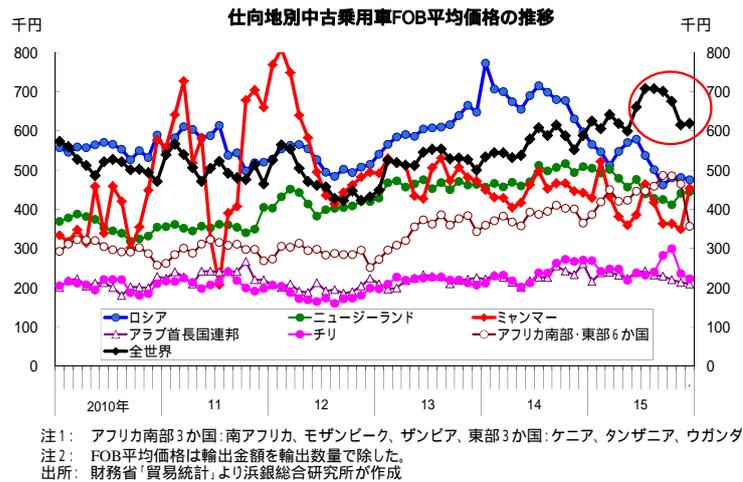
図表 17 アフリカ、NZ、スリランカ向け以外が輸出減



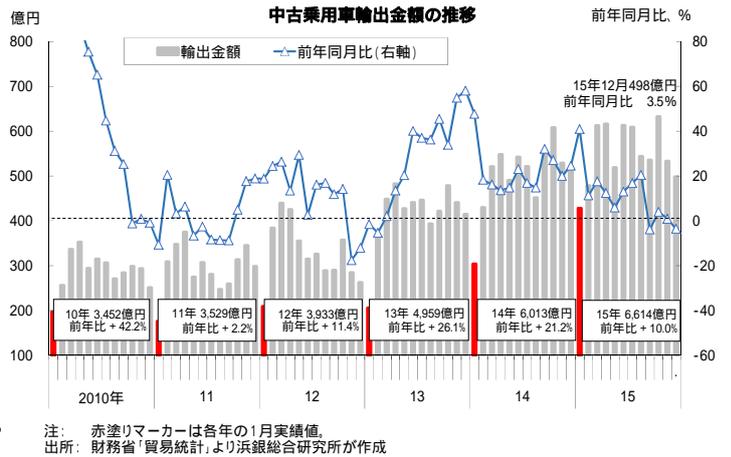
図表 18 スリランカ向け輸出は若干持ち直し



図表 19 中古乗用車輸出事況は若干持ち直しも低調



図表 20 12月輸出金額は前年割れ



図表 21 2015 年中古乗用車輸出仕向地別ランキング

中古乗用車輸出先上位(15年輸出台数1万台以上)

中古乗用車仕向け地国	中古乗用車輸出台数					FOB平均価格		
	2015年 (台)	前年比 (%)	前年比 (台)	2014年 (台)	09-14年 5年平均増減率 (CAGR%)	2015年 (万円)	前年比 (%)	2014年 (万円)
1 ニュージーランド	112,647	7.0	7,342	105,305	13.6	46	-5.0	48
2 アラブ首長国連邦	103,836	27.9	22,628	81,208	7.8	23	-0.8	23
3 ミャンマー	85,963	-15.5	-15,809	101,772	136.8	41	-8.6	45
4 ケニア	65,230	14.9	8,469	56,761	10.1	72	11.5	65
5 チリ	58,421	-11.5	-7,627	66,048	11.8	25	4.5	24
6 スリランカ	51,561	62.1	19,747	31,814	127.6	174	-5.3	184
7 ロシア	43,980	-63.2	-75,626	119,606	21.8	53	-22.8	68
8 パキスタン	43,399	26.2	9,004	34,395	49.7	100	16.9	85
9 南アフリカ共和国	38,003	-8.9	-3,705	41,708	0.6	17	2.2	17
10 タンザニア	35,184	14.7	4,498	30,686	-31.1	33	-3.2	34
11 モンゴル	30,610	-8.5	-2,846	33,456	41.8	46	5.5	44
12 ジョージア	29,407	-24.0	-9,284	38,691	47.6	20	-3.8	20
13 バングラデシュ	26,663	49.1	8,776	17,887	-9.8	127	5.5	120
14 マレーシア	21,204	-17.0	-4,340	25,544	4.5	258	3.5	249
15 トリニダード・トバゴ	17,301	34.2	4,413	12,888	38.4	67	19.6	56
16 ウガンダ	16,120	-18.5	-3,653	19,773	10.8	38	20.4	31
17 モザンビーク	15,311	-11.7	-2,029	17,340	37.6	29	3.1	29
18 ジャマイカ	15,117	60.5	5,698	9,419	24.9	72	14.4	63
19 シンガポール	14,885	421.0	12,028	2,857	-7.6	240	-4.4	251
20 スリナム	13,508	14.4	1,704	11,804	-2.1	52	19.2	43
21 ザンビア	10,991	-35.7	-6,104	17,095	54.7	32	13.2	29
22 香港	10,704	14.6	1,362	9,342	2.8	167	38.4	121
キルギス	179	-99.6	-48,109	48,288	51.1	37	-89.6	22
アフリカ6か国(下線表記)	180,839	-1.4	-2,524	183,363	-8.8	44	1.2	43
全世界	1,021,779	-3.6	-37,938	1,059,717	20.4	65	14.1	57

注: FOB平均価格は輸出金額を輸出台数で除して計算。
出所: 「貿易統計」を基に浜銀総合研究所が作成

担当: 調査部 産業調査室 深尾三四郎

Tel: 045-225-2375

Email: fukao@yokohama-ri.co.jp

本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。